

【特別支援学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立大和特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	前年度は12項目中A評価が7項目、B評価が5項目、C評価は無くなり大きく改善した。 ・「児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着」「児童生徒、保護者のニーズに応じた進路指導の充実と社会生活を送るための力をつける教育の推進」「児童生徒が夢や希望をもち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動」「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」については改善したが、目標の成果に達することができなかった。これらの評価項目については、引き続き改善を図っていく必要がある。
2 学校教育目標	「たくましく自立し、積極的に社会に参加する人間の育成」 ・子ども一人一人のニーズに応じた最適な対応に努めることにより、子どもが自分の力を発揮しながら自立的・主体的に取り組む姿を実現し、将来の自立的・主体的な地域生活へつなげていく。
3 本年度の重点目標	① 新学習指導要領に対応した授業づくりをチームで行い、保護者に伝わる学習評価の充実に努める。 ② カリキュラムマネジメントを推進し、教育課程の改善を図る。 ③ ICT機器の効果的な活用を図る。 ④ 業務改善等を行い、働き方改革を推進する。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	●「子どもに応じた適切な授業が行われている」と回答した保護者の平均が3.2以上 ●「個別の指導計画において、保護者に分かりやすい学習評価に努めた」と回答した教職員の平均が3.1以上	・自立活動では、個々の児童生徒の活動場を設定し、確実に指導を行う。 ・評価内容を学年で検討したり、担任間で読みあたりたりして、学校での学びの様子がわかる評価になるように工夫する。							(教務部)
	○新学習指導要領に示されている各教科等の目標や内容を踏まえた授業実践	○児童生徒にとって「わかる授業」「楽しい授業」が展開されていると回答した保護者の平均が3.1以上 ○新学習指導要領に対応した授業づくりをチームで行ったと回答した教職員の平均が3.1以上	・全学部、学年でチームを編成し、後期の観念を用いて算数・数学の授業づくりを行う。 ・学部別のミニ研修やリモート研修で、授業改善の視点や学習評価についての理解を深める。 ・年度末にポスター発表を実施し、学部内・他学部の取り組みを学びながら、専門性の向上を図る。							(教育研究部)
	◎児童生徒が夢や希望をもち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「ニーズに応じた進路情報を提供している」と回答した保護者の平均が3.1以上 ○「社会参加に必要な力をつけるための教育に努めている」と回答した教職員の平均が3.1以上	・学部別に保護者への進路講話や進路だよりなどの情報提供のための資料の充実を図る。 ・キャリアパスポートの活用状況を確認し、担当職員でフィードバックする場を設ける。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「心の教育活動や生命を尊重する活動など道徳性を高める教育に取り組むことができた」と答えた教職員の平均が3.1以上 ●「図書を活用した学習活動を行った」と回答した教職員の平均が3.2以上	・「図書教材」や「特別の教科 道徳」の教科書を参考に教材を作成する。 ・生活科や社会科の教科の指導で、ルールやマナーに関する指導の充実を図る。							(各学部)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「保護者と積極的に連絡を取り、いじめの早期発見や未然防止に努めている」と回答した保護者の平均が3.2以上 ○「生徒観察や情報共有を丁寧に行い、いじめの認知・認知を積極的にし、組織的に迅速に対応できている」と回答した職員の平均が3.1以上	・いじめについての研修を年1回以上行い、職員の意識の向上を図る。 ・各種会議で生徒の情報交換を丁寧に行い、職員間で早期にトラブルを防ぐ手立て等の共通理解を図る。							(生活指導部)
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」感染症拡大防止に係る取り組みの充実	●家庭と連携して、新型コロナウイルス感染症等の感染症予防に努めたと回答した教職員の平均が3.2以上 ●児童生徒の実態に応じた感染予防対策を行っている」と回答した保護者の平均が3.2以上	・家庭と連携し、児童生徒の健康状態の把握に努める。 ・マチコメール、保健だより、学年だより等で保護者への啓発を行う。 ・感染症予防対策について、児童生徒、職員への周知を図る。 ・日常生活や授業を通して、感染症予防の指導を行う。							(保健環境部)
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	●「支援部だよりが役に立った」と回答した地域の学校の平均が3.2以上 ●「支援部だよりに掲載する教材教具等の資料を提供した」と回答した職員の平均が3.0以上	・各学部2名ずつ「支援部だより啓発チーム」を立ち上げ、職員への啓発活動を行う。 ・支援部だよりを年に2回発行し、後期にアンケートを実施する。 ・各クラスから年に1度程度、掲載する資料提供してもらうよう計画し、依頼する。							(教育支援部)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在時間等の上限を遵守する。 ●「時間外自発時間の1月の平均時間を45時間以内に抑えた」と回答した職員の平均が3.3以上	・定時退勤日の厳守 ・17時以降の会議や打ち合わせの禁止 ・週末や計画的な年次休暇取得の推進							(管理職 教頭)
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
○学校経営方針	○教育目標に即した教育の実践	○「本校に入学させてよかった」と回答した保護者の平均が3.5以上(寄宿舎) ○「寄宿舎に入舎させてよかった」と回答した保護者の平均が3.0以上	・子どもや保護者の気持ちを受け止めて、子どもが今日の学び・学校生活に満足し、明日の学び・学校生活を期待する教育活動を設定する。							
○教職員の専門性の向上	○カリキュラムマネジメントによる教育課程の推進	○「個々の子どもの学びをチームで考え、授業検討会を実施した」と答えた教職員の平均が3.2以上	・カリキュラム委員会を年5回開催し、小中高の各教科等の学びが一貫した学びにつながるよう教育課程の編成に努める。 (寄宿舎) ・「寄宿舎でこんな生活を送りたい」「将来のために指導して欲しいこと」など児童生徒や保護者の願いを聞きステップアップを図る。							(教育研究部・各学部・教務部)
○ICT活用教育	○新型コロナウイルス感染症対策を含めた、ICT機器を活用した効果的な授業や支援の実施 ○ICT機器に関わる研修	○「ICT機器やTeams等の機能を効果的に活用して授業に取り組んだ」と回答した教職員の平均が3.1以上 ○「ICTに関わる研修を受講して、授業に生かすことができた」と回答した教職員の平均が3.1以上	・電子黒板でTeamsのウェブ会議機能等を活用し、教育活動の充実を図る。 ・校内でICTに関わる研修を年1回以上参加したり、掲示板でICT活用に関わる資料を閲覧したりする。							(情報教育部)

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--